

2008年度ノーベル化学賞受賞者の下村 脩 先生および2008年度ノーベル物理学賞受賞者の小林 誠 先生を名古屋大学特別招へい教授として招致

名古屋大学では、教育・研究活動を一層推進するため、優れた業績を有する研究者を招致する特別招へい教授制度を2007年4月に制定されました。特別招へい教授には、名古屋大学の学術振興に関して助言等をいただくとともに、高等研究院アカデミー会員として、高等研究院の学術活動について助言・提言をいただき、若手研究者・大学院生に学術の真髄を伝えるという役割も担っていただきます。この度、飯島澄男先生および益川敏英先生に続いて、2008年度ノーベル化学賞受賞者の下村 脩博士（前ウッズホール海洋生物学研究所上席研究員）および2008年度ノーベル物理学賞受賞者の小林 誠博士（独立行政法人日本学術振興会理事、高エネルギー加速器研究機構名誉教授）が特別招へい教授として招致されました。

下村先生は、平田義正名古屋大学名誉教授のもとで生物発光の化学的研究を開始し、名古屋大学で理学博士学位取得後に、名古屋大学理学部助教授等を経て、米国で緑色蛍光タンパク質GFPを発見し、発光機構を解明しました。GFPの中の蛍光部位はタンパク質が合成されれば自動的に生成する発色団です。このため、分子生物学で利用するには極めて便利で、GFP遺伝子を組み込めば、結合するタンパク質を生物の中で生物が生きたまま、可視光や紫外線で光らせることが可能な画期的なものでありました。今日では、分子生物学、医学、薬学では欠かせない実験手法として認知されるに至っています。この業績で2008年度のノーベル化学賞を受賞される栄誉に輝かれました。

一方、小林先生は、1973年に坂田昌一名古屋大学名誉教授の同じ門下生である益川敏英博士と共に、第5、第6のクォークを導入する「小林・益川理論」を提唱しました。これはその後の実験で検証されると同時に、素粒子レベルでの粒子・反粒子の非対称性をもたらす、CP不変性の破れを説明できることから、重要な理論として確立されました。この業績が高く評価され、益川博士と共に、2008年度のノーベル物理学賞を受賞されました。

世界的に著名な下村先生、小林先生に助言をいただくことで、本学のさらなる発展が期待されます。